

令和5年度  
新潟大学工学部 総合型選抜 入学試験問題

小 論 文  
(建築学プログラム)

注 意 事 項

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはならない。
- 2 問題は、全部で1ページである。(落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は申し出ること。  
問題冊子の中に下書き用紙が1枚入っている。また、別に解答用紙が1枚ある。
- 3 志望する主専攻プログラム名を解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
- 4 受験番号を解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
- 5 解答時間は、60分である。
- 6 問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること。

## 問題

近年、私たちが日常生活を送る住宅地は、空き家・空き地の増加や公共・公益施設の陳腐化、住民の高齢化などに直面し、その存続に課題を抱えています。そのような住宅地では再生をめざし、既存の住宅を利用して住宅地に新しい価値を付加する建築の手法や仕組みが考案・実践されています。ただし人口減少下の日本では、既存の住宅を住宅として利用しつづけるのみでは、住宅地の再生につながらないことが指摘されています。上記をふまえて、住宅地を再生するためにどうすれば良いか、あなたの考えを600字以内で記述してください。

解答にあたっては、解答用紙の1マスを1字に使い、句読点、カッコなどはいずれも1字として扱うこと。ただし、算用数字およびアルファベットは1マス2字とする。

令和5年度総合型選抜 小論文

工学部工学科建築学プログラム

【出題意図】

人口減少社会を迎えた日本において、住宅地は既存の住宅の老朽化などの物理的課題に加え、住民の高齢化や空き家の増加などの社会的課題が顕在化・深刻化する場所として広く知られるようになった。一方、近年は既存の住宅を空間資源として捉えリノベーションにより住宅地全体の価値向上に結びつける試みや、マネジメントのしくみの導入により良好な住宅地に維持・更新していく取り組みなどが、全国各地の住宅地で実践されている。そのような我々の暮らしに密接な住宅地の再生を題材とし、建築に対する強い関心、論理的思考力および適切な文章表現力を有しているかを問う問題にした。